

全業種

回答数365社

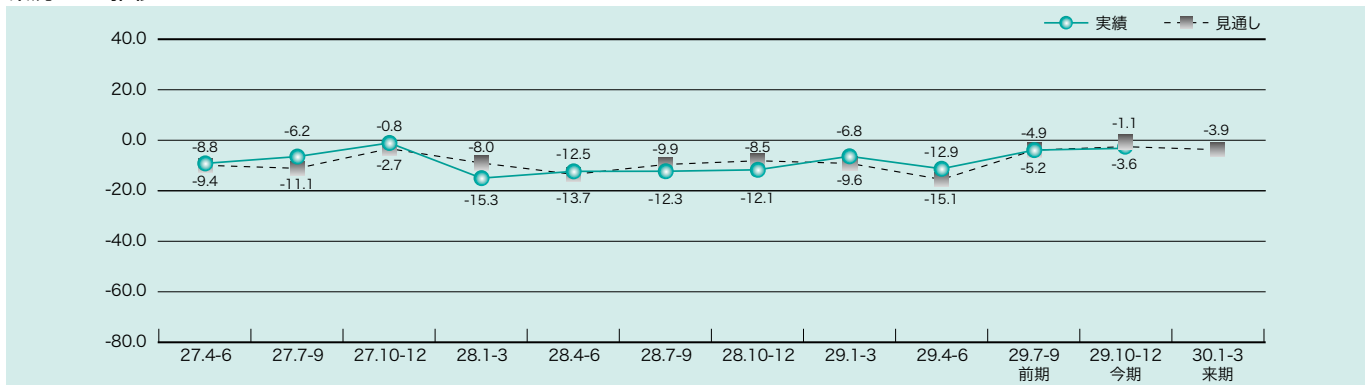
今期の実績(10-12月期)

業況D・Iは▲3.6。前期より僅かに改善。

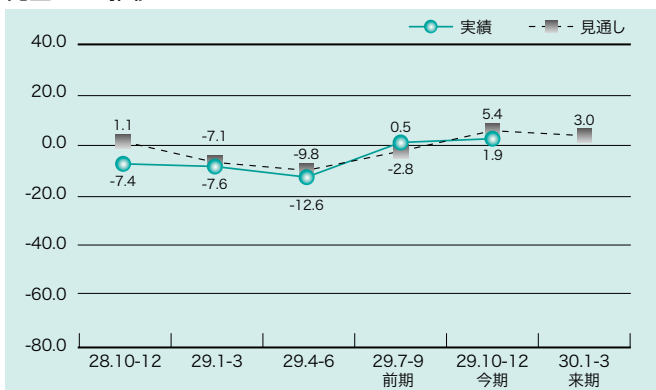
来期の見通し(1-3期)

業況D・Iは▲3.9。来期はほぼ横ばいの見通し。

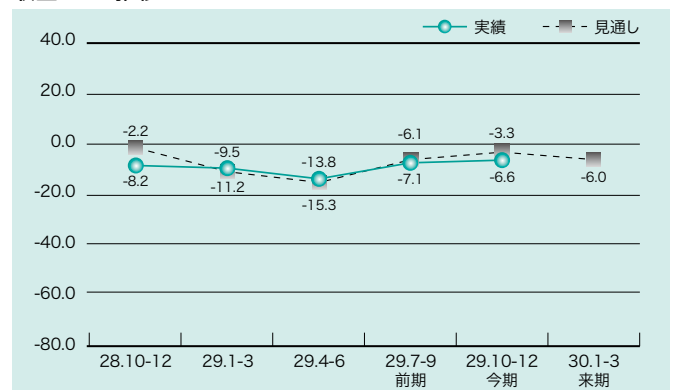
業況D・Iの推移



売上D・Iの推移



収益D・Iの推移



D・I判断指数

	前期実績			今期実績			来期見通し	
	平成28年 4-6月	7-9月	10-12月	平成29年 1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	平成30年 1-3月
業況	▲12.5 	▲12.3 	▲12.1 	▲6.8 	▲12.9 	▲5.2 	▲3.6 	▲3.9
売上	▲11.7	▲4.4	▲7.4	▲7.6	▲12.6	0.5	1.9	3.0
収益	▲13.9	▲8.7	▲8.2	▲9.5	▲13.8	▲7.1	▲6.6	▲6.0
資金繰り	▲7.7	▲9.0	▲12.9	▲13.4	▲6.4	▲4.9	▲8.8	▲9.0
在庫	7.5	▲2.4	2.4	4.6	2.3	3.4	3.0	▲1.8
設備	▲6.8	▲8.4	▲6.3	▲3.7	▲5.8	▲8.9	▲9.1	▲9.2
人手	▲23.8	▲26.3	▲27.7	▲35.0	▲28.7	▲37.7	▲43.3	▲44.2

(注)在庫/設備/人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

へきしん取引先 景況調査とは

本調査は、地域および業種の景気実態および景気予測(景況)を把握するため、四半期ごとに当金庫の取引先企業様にアンケート調査を実施し、回答をいただいたものです。

調査概要

- 調査実施時期 平成29年12月1日～7日
- 調査対象企業 365社
- 調査対象地域 西三河および尾張南部を中心とした当金庫の営業エリア

業種構成

	製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設・不動産業	その他	合計
企業数(社)	140	33	74	31	85	2	365
構成比(%)	38.4%	9.0%	20.3%	8.5%	23.3%	0.5%	100.0%

製造業
回答数140社

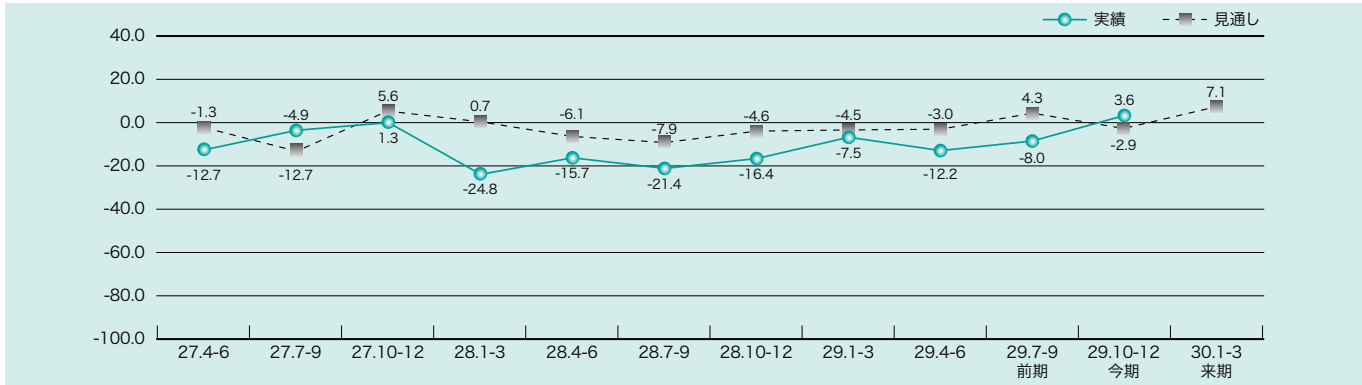
今期の実績(10-12月期)

業況D・Iは3.6。前期より改善。

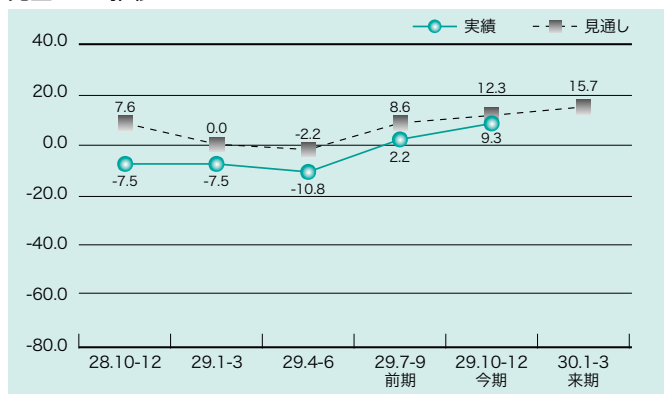
来期の見通し(1-3月期)

業況D・Iは7.1。来期は若干改善の見通し。

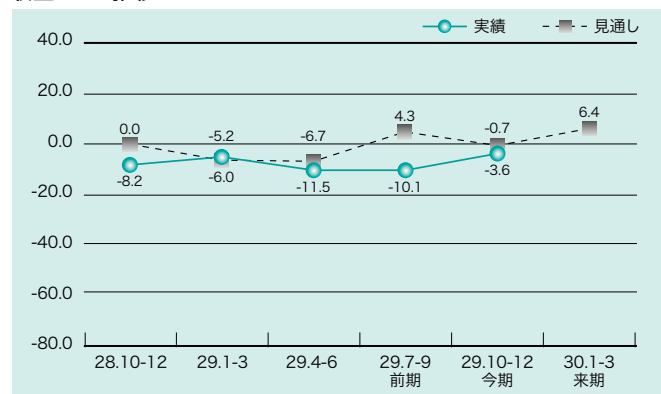
業況D・Iの推移



売上D・Iの推移



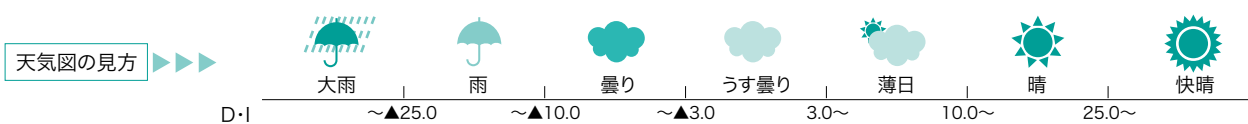
収益D・Iの推移



D・I判断指数

	平成28年			平成29年			平成30年	
	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月
業況	▲15.7	▲21.4	▲16.4	▲7.5	▲12.2	▲8.0	3.6	7.1
売上	▲14.3	▲9.8	▲7.5	▲7.5	▲10.8	2.2	9.3	15.7
収益	▲18.6	▲12.1	▲8.2	▲5.2	▲11.5	▲10.1	▲3.6	6.4
資金繰り	▲7.1	▲10.6	▲11.9	▲8.2	▲4.3	▲6.5	▲7.1	▲5.7
在庫	8.6	▲1.5	6.0	6.7	2.2	4.3	5.8	0.0
設備	▲7.9	▲7.6	▲4.5	3.7	0.0	▲10.9	▲8.6	▲11.7
人手	▲16.5	▲22.7	▲20.1	▲30.6	▲25.9	▲41.3	▲47.1	▲51.8

(注)在庫/設備/人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。



<D・Iとは> D・Iとは業況(業界の景气)を判断するための指数であり、次の計算式で求められます。
D・I(ディフュージョン・インデックス) = 業況判断指数 = (良い又はやや良いと答えた割合) - (悪い又はやや悪いと答えた割合)

卸売業
回答数33社

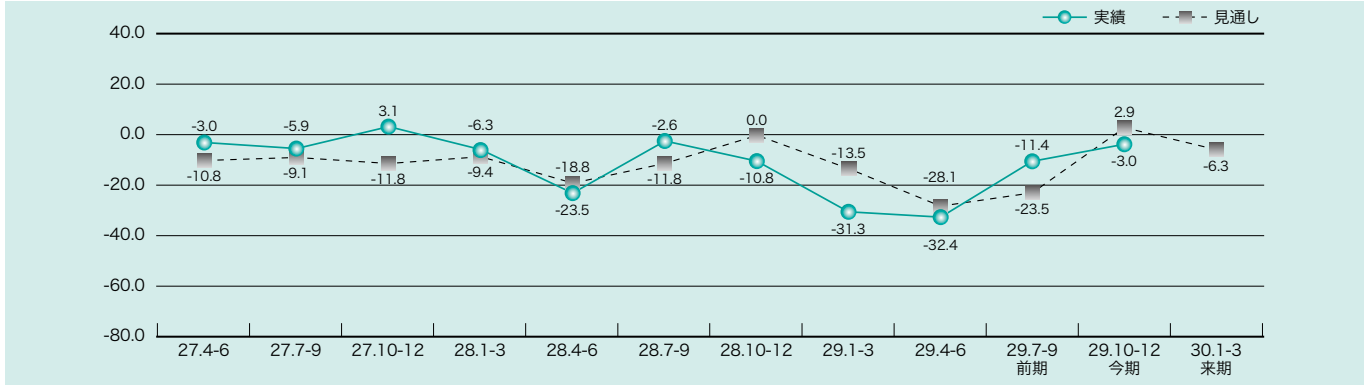
今期の実績(10-12月期)

業況D・Iは▲3.0。前期より改善。

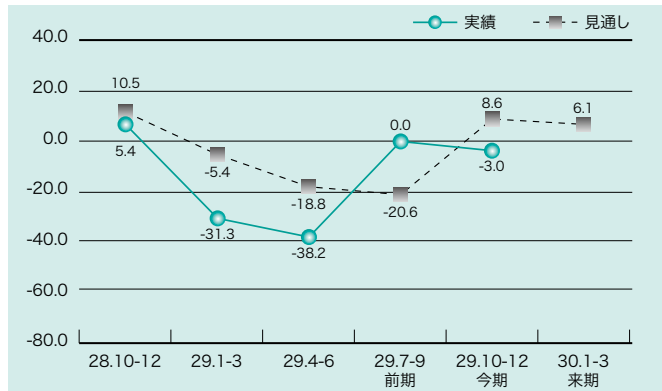
来期の見通し(1-3月期)

業況D・Iは▲6.3。来期は若干悪化の見通し。

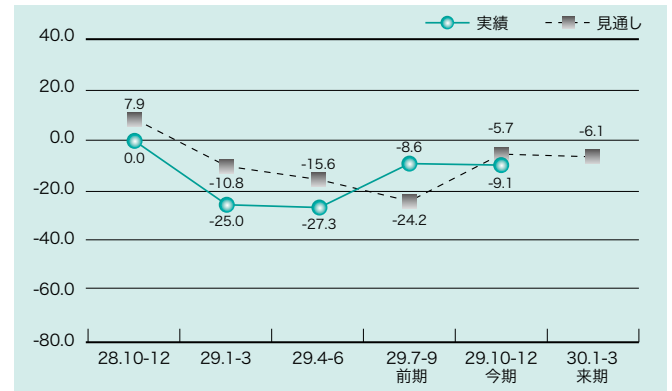
業況D・Iの推移



売上D・Iの推移



収益D・Iの推移



D・I判断指数

	前期実績			今期実績			来期見通し	
	平成28年 4-6月	7-9月	10-12月	平成29年 1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	平成30年 1-3月
業況	▲23.5 	▲2.6 	▲10.8 	▲31.3 	▲32.4 	▲11.4 	▲3.0 	▲6.3
売上	▲32.4	5.3	5.4	▲31.3	▲38.2	0.0	▲3.0	6.1
収益	▲29.4	▲2.6	0.0	▲25.0	▲27.3	▲8.6	▲9.1	▲6.1
資金繰り	▲5.9	▲13.2	▲5.4	▲25.0	▲11.8	▲8.6	▲15.2	▲15.2
在庫	14.7	▲15.8	▲2.8	3.1	3.0	2.9	6.3	0.0
設備	▲5.9	▲2.6	▲2.7	▲9.7	▲14.7	▲11.8	▲15.6	▲9.4
人手	▲17.6	▲15.8	▲18.9	▲18.8	▲20.6	▲37.1	▲36.4	▲36.4

(注)在庫/設備/人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

小売業 回答数74社

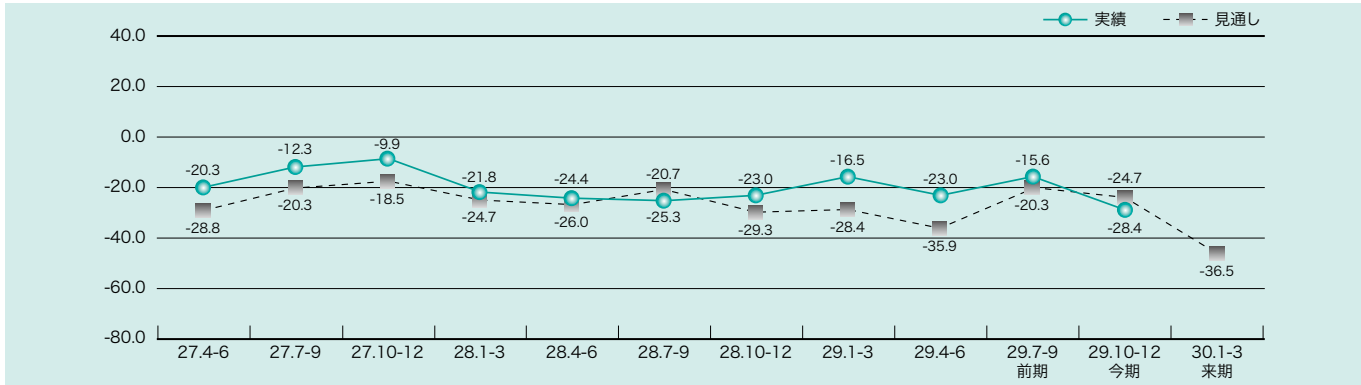
今期の実績(10-12月期)

業況D・Iは▲28.4。前期より悪化。

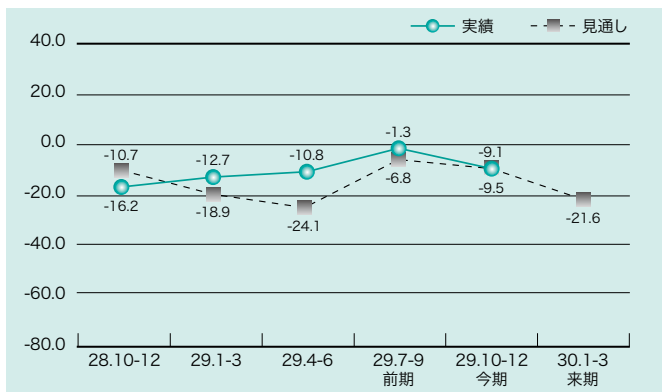
来期の見通し(1-3月期)

業況D・Iは▲36.5。来期は悪化の見通し。

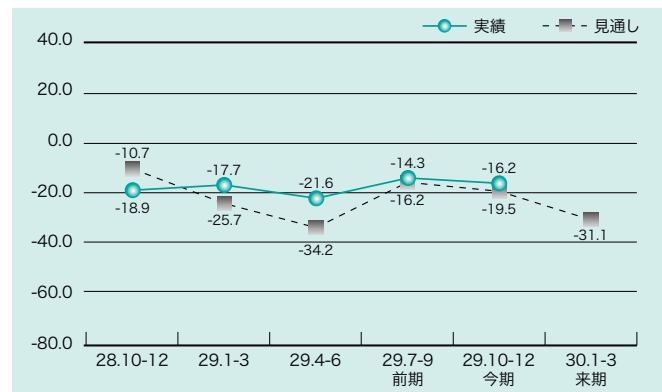
業況D・Iの推移



売上D・Iの推移



収益D・Iの推移



D・I判断指数

	平成28年			平成29年			平成30年	
	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月
業況	▲24.4 	▲25.3 	▲23.0 	▲16.5 	▲23.0 	▲15.6 	▲28.4 	▲36.5
売上	▲18.3	▲13.3	▲16.2	▲12.7	▲10.8	▲1.3	▲9.5	▲21.6
収益	▲19.5	▲22.7	▲18.9	▲17.7	▲21.6	▲14.3	▲16.2	▲31.1
資金繰り	▲23.2	▲20.0	▲28.4	▲21.5	▲14.9	▲7.8	▲27.0	▲23.0
在庫	12.3	5.3	8.1	11.4	10.8	13.0	14.9	6.8
設備	▲8.5	▲13.3	▲14.9	▲10.1	▲9.5	▲7.8	▲10.8	▲8.2
人手	▲19.5	▲28.0	▲36.5	▲30.4	▲29.7	▲24.7	▲27.0	▲20.3

(注)在庫/設備/人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

サービス業
回答数31社

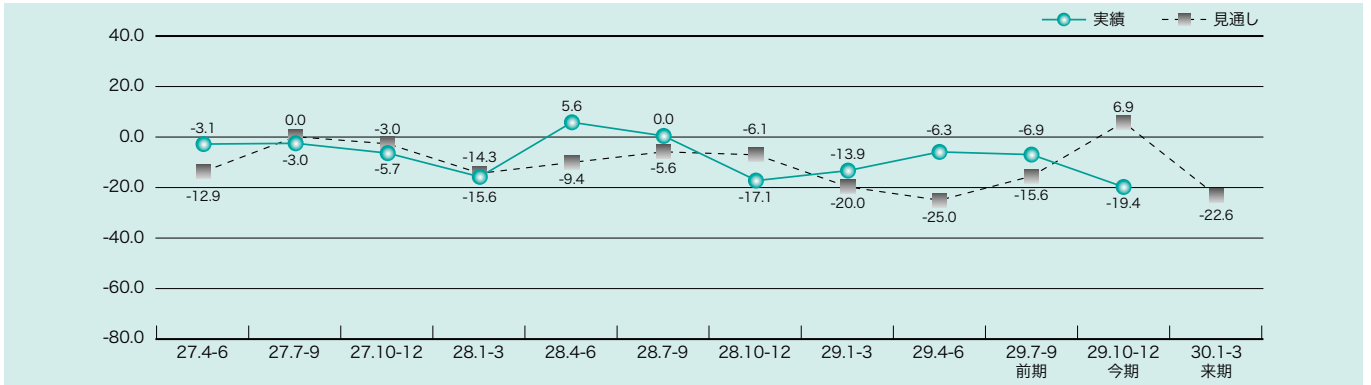
今期の実績(10-12月期)

業況D・Iは▲19.4。前期より悪化。

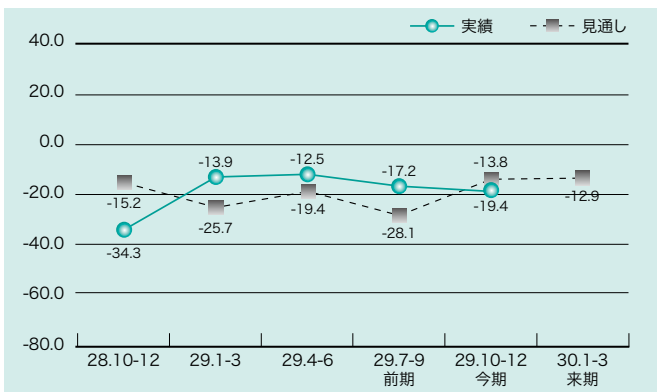
来期の見通し(1-3月期)

業況D・Iは▲22.6。来期は若干悪化の見通し。

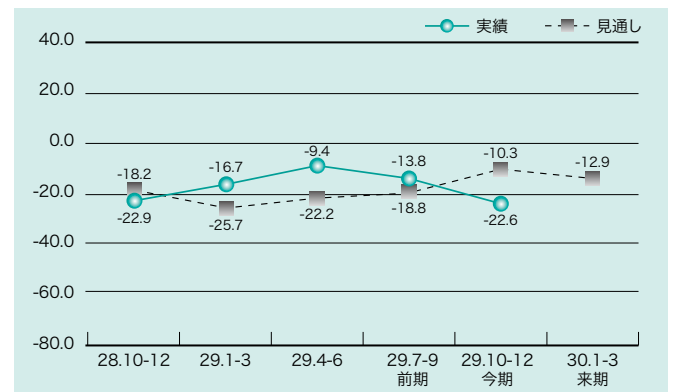
業況D・Iの推移



売上D・Iの推移



収益D・Iの推移



D・I判断指数

	平成28年			平成29年		前期実績	今期実績	来期見通し
	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	平成30年 1-3月
業況	5.6 	0.0 	▲17.1 	▲13.9 	▲6.3 	▲6.9 	▲19.4 	▲22.6
売上	2.8	▲6.1	▲34.3	▲13.9	▲12.5	▲17.2	▲19.4	▲12.9
収益	0.0	▲6.1	▲22.9	▲16.7	▲9.4	▲13.8	▲22.6	▲12.9
資金繰り	5.6	6.1	▲17.1	▲19.4	▲9.7	▲3.4	▲22.6	▲19.4
設備	▲15.2	▲12.9	▲2.9	▲8.8	▲10.3	▲7.1	▲9.7	▲12.9
人手	▲41.7	▲34.4	▲37.1	▲44.4	▲40.0	▲46.4	▲61.3	▲61.3

(注)設備/人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

建設・不動産業 回答数85社

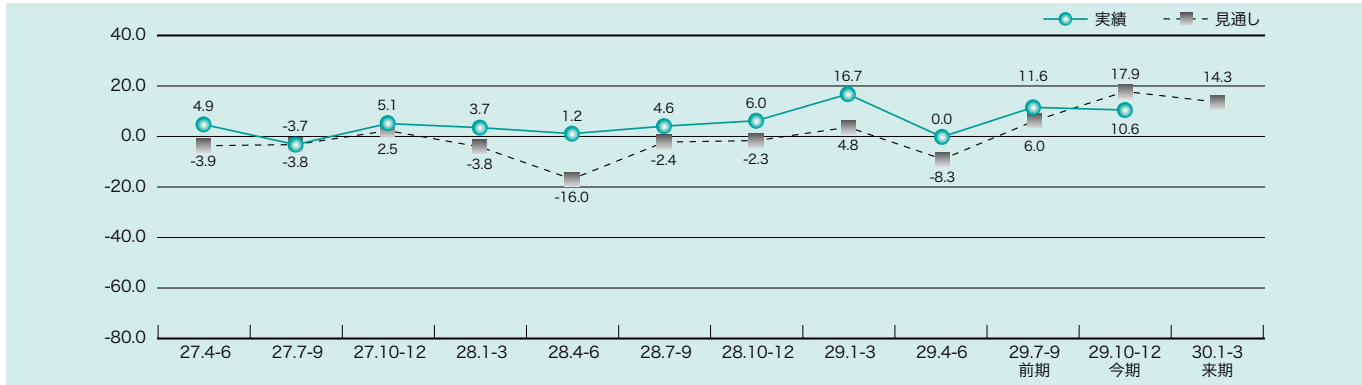
今期の実績(10-12月期)

業況D・Iは10.6。前期より僅かに悪化。

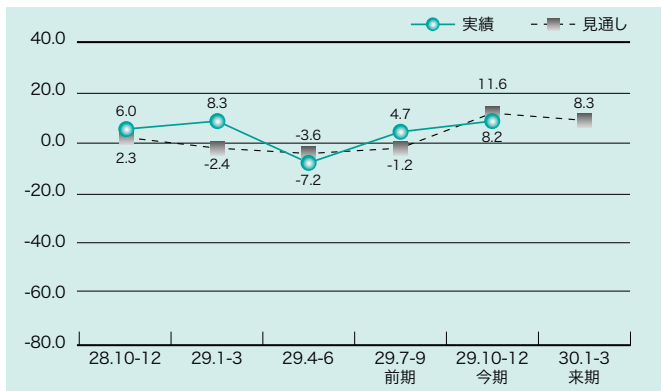
来期の見通し(1-3月期)

業況D・Iは14.3。来期は若干良化の見通し。

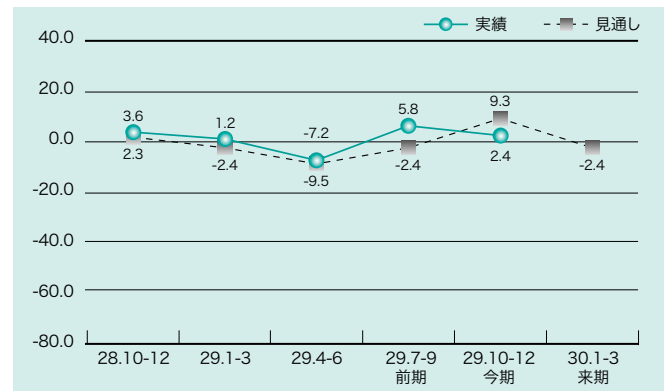
業況D・Iの推移



売上D・Iの推移



収益D・Iの推移



D・I判断指数

	平成28年			平成29年			平成30年	
	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月
業況	1.2	4.6	6.0	16.7	0.0	11.6	10.6	14.3
売上	1.2	9.2	6.0	8.3	▲7.2	4.7	8.2	8.3
収益	▲1.2	5.7	3.6	1.2	▲7.2	5.8	2.4	▲2.4
資金繰り	▲1.2	▲1.1	▲2.4	▲4.8	1.2	1.2	10.6	3.5
在庫	▲2.5	▲6.0	▲6.0	▲8.8	▲7.4	▲6.0	▲12.0	▲12.0
設備	1.6	▲5.9	▲4.5	▲6.1	▲8.2	▲6.3	▲4.8	▲3.2
人手	▲35.4	▲31.0	▲31.0	▲48.2	▲31.3	▲40.7	▲47.1	▲49.4

(注)在庫/設備/人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。